

百尺竿頭に一步を進む

一般財団法人いも類振興会 理事長 ^{やの}矢野 ^{てつお}哲男

本年、7月1日付けで、(一財)いも類振興会の理事長を拝命しました。生家は愛媛県のみかん農家で、ジャガイモやサツマイモは栽培しており、秋になれば山野で自然薯を掘って育ちました。なので、平成6年、農水省の畑作振興課で「いも類班」の課長補佐に着任した際には、それなりに「おいも」のことは知っているつもりでしたが、いざ業務を担当すると、知らないことばかり。例えばジャガイモの栽培で畝の効用がいかに大きいかを全く理解していなかったことに気づいて愕然としたことを記憶しています。

そして耳学問で勉強しながら業務を進める中で、生産から流通・加工、そして消費に至るまでの関係者による情報交流が意外に少ないことに気づきました。ちょうどWindows95が登場し、インターネットが爆発的に普及し始めた頃です。関係者のご協力のもと、ガット・ウルグイアイラウンド対策経費を活用してジャガイモとサツマイモの『MiNi白書』を作成・配付したのを皮切りに、最終的には日本いも類研究会を立ち上げ、ホームページやメーリングリストでの情報発信に取り組みました。

いも類班での勤務は3年半で、その後は統計情報部に転出することになりました。そして初めて熊本の九州農政局に配属され

た時のこと、とあるスナックで年配のOBから小さなメモを渡されました。それが『百尺竿頭進一步』だったのです。おそらく、行政担当から外されたことを嘆く私へのメッセージだったのでしょう。この言葉の意味を知った時、目から鱗が落ちる思いであったのを鮮明に覚えています。この言葉は中国の禅宗の書籍「伝灯録」にある長沙景岑禅師の言葉が語源で、「悟りの境地に達しても、そこに安住しているのは本当の悟りではなく、そこから身を投げ出して人々のために尽力してこそ本来の悟りである」ということのようなのです。

今回、縁あって再び「おいも」の世界に戻ってきた訳ですが、それと時を同じくしてサツマイモ基腐病が関東でも発生しました。8月上旬に開催された日本かんしょ輸出促進協議会の設立総会でも議論になり、当病害に関する知見の周知と情報交流の必要性を痛感しましたので、急遽、オンラインでの情報交換会を開催したところです。ジャガイモの世界でもシロシストセンチュウという問題を抱えている訳ですが、これらの難題に対処するには、いも類関係者の皆様のご理解とご協力が不可欠です。もう一步、次のステップに進むために力添えをいただきたいと思いますので、宜しくお願いいたします。